

CT 画像を用いたケロイド・肥厚性癬痕の内部性状の解析および内部性状に応じた術後放射線治療の適切なレジメンの探索ならびに高血圧とケロイド・肥厚性癬痕の術後放射線治療成績についての後方視的観察研究

研究代表者：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 放射線科 医師 前本均

1. 研究の対象

2006年10月1日から2018年10月31日までの期間に、ケロイド・肥厚性癬痕に対する術後放射線治療を沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで受けられた方を対象としています。

2. 研究の目的と意義

ケロイド・肥厚性癬痕の治療法は内服やテープ、ステロイド注射など様々ありますが、手術＋放射線治療の組み合わせが最も有効性が高いとされています。しかし、手術＋放射線治療でも再発率は10-20%程度あるといわれています。

どのような患者さんで再発率が高いかは、主に問診や視診、触診などの情報をもとにリスク分類がされています。しかし現在用いられているリスク分類は多くを評価者の主観に頼った情報に基づいています。

当院ではケロイド・肥厚性癬痕の手術＋放射線治療を予定されている方に対して、病変の深部方向への広がり術前に確認し、より正確な放射線治療を行う目的で、これまで手術の前にCT検査を施行してきました。

本研究では、ケロイド・肥厚性癬痕のCT画像情報を解析して客観的な情報（CT値ヒストグラムの尖度や歪度、平均値など）を収集し、これがケロイド・肥厚性癬痕の治療成績の予測に有用であるかを検討します。また、近年高血圧とケロイドの重症度についての関連が報告されており、高血圧と手術＋放射線治療の成績との関連もあわせて研究予定です。

3. 研究の方法

対象となる方の過去のカルテや放射線治療の記録を参照し、データを集計して解析します。この研究により患者さんに新たな負担は発生しません。具体的には下記の情報を収集致します。研究機関は沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの倫理審査委員会から承認を得た日より2021年3月31日までになります。

- ① 基本情報：年齢、性別、既往歴、常用薬、外来受診時の血圧、肉体労働やスポーツなど生活習慣上の悪化因子の有無。
- ② ケロイド・肥厚性癬痕についての情報：部位、形状、周囲発赤浸潤の有無、長径、短径、体積、CT値（平均値/中央値/ヒストグラムの尖度や歪度など）、家族性の有無、